

## 令和5年度 第3回 日野市農業懇談会 要点録

日時 令和6年1月19日(金)午後2時~4時 日野市役所5階507会議室

出席者 10名

- 1 会長 旗野 利之 日野市農業団体連合会会長
- 2 会長職代 宮澤 和美 市民公募者
- 3 委員 齊藤 江利子 市民公募者
- 4 委員 帆足 千栄子 市民公募者
- 5 委員 清水 雄一 日野市農業団体連合会副会長
- 6 委員 土方 京子 日野市女性農業者・みちくさ会会員
- 7 委員 岩沢 宏 日野市農業委員会会長
- 8 委員 金子 峰男 日野市農業委員会会長職務代理者
- 9 委員 野瀬 友利 東京都農業振興事務所農務課長
- 10 委員 菊池 豊 東京都南多摩農業改良普及センター所長

欠席者 2名

宮坂 幸仁 東京南農業協同組合日野支店長

土方 勇二 東京南農業協同組合七生支店長

事務局：都市農業振興課長、農産係長、担当者

### 1. 開会 (司会：農産係長)

都市農業振興課長より挨拶、資料の確認。

### 2. 新委員への委嘱状交付 ……資料No.① 第8期日野市農業懇談会委員名簿

農業団体連合会副会長 清水雄一氏(令和5年7月20日付けで前任阿川暁史氏と交代)

机上にて交付、挨拶

### 3. 第4次日野市農業振興計画・前期アクションプラン(素案)について (議事進行：会長)

……資料No.②第4次日野市農業振興計画・前期アクションプラン(素案)

#### 第1章~第3章

(事務局) 資料説明

(委員) 第3章2(1) 10年後の農地面積の算出根拠を教えてください。

(事務局) 推計値は現状減少率で算出、目標値は推計値の5%増しで算出している。

(委員) 事実に基づいているものなので仕方がないが、正直ショックを受けた。是非、目標値に対して、東京都の施策等を利用して食い止めてほしい。

(事務局) 生産緑地の貸借、新規就農者支援の施策は農地の減少に歯止めをきかせるものであるが抜本的なものではない。予算の問題もあるが、生産緑地の公有地化へという時代が来ている。

第4章のアクションプラン(施策No.332)にも明記した。

(委員) 農地の減少の要因として、日野市では区画整理事業があると思う。

(事務局) 農地から見ると区画整理事業はマイナスの要因だが、街づくりとしては必要な要素だ。

(委員) 農外からの新規就農者が出てきている。貸借を進めて経営耕作農地を少しでも増やしてほしい。

(委員) 農地の有効活用のための農地の貸し借り、農地バンク等だけでは歯止めにならない。

稼げる農業の経営モデルを示し、農の学校のようなマンパワーの創出も必要だ。

(委員) 女性農業者「みちくさ会」も高齢化で会員減少の問題を抱えている。農業者は将来の相続への葛藤もあり、農地の貸借を気軽にしたいが、色々不安な要因があって踏み出せない。

(委員) 相続について事前に決められるような風潮になっていければと思う。

(委員) 農協でもそんな相談が多い。残念だが田圃から売ってしまう現状がある。

(委員) 相続については普通の家庭でも話しにくい問題、もっと情報共有できる場があればいいのでは。

(委員) 農協だけでなく行政も入り、オープンに話せる場を作っていけないか。

(委員) 出席した会合で配布された「我が家の農地が地域の宝であり続けるために／全国農業会議所出版部」が相続対策に役立つ良書。これを広く配布できないか。

(委員) 相続税の制度自体が問題だと思う。

(委員) 農業委員会として相続制度について国会議員等への要請を継続して行っている。

(委員) 災害の備えとしても農地を残すことは最重要課題だと思う。

(委員) 新規就農支援への（クラウドファンディング等の）投資制度はあるのか？

(委員) 市民から農業者個人への直接投資という制度はないと思う。

(委員) 新規就農者へは施設整備等の補助制度がある。

(事務局) 計画策定のための市民アンケートの中で農地を残すしたい市民が 92.1%と高い数値が出ている。

(委員) 国の制度もこれから変わっていく可能性がある。

#### 第4章の1

(事務局) 資料説明

(委員) 新規項目で農業者の出産・育児介護環境の改善（施策No.116）について聞きたい。

(事務局) 日野市では最近女性の新規就農者が法人化しているので、今後制度が必要なケースが増えてくる。

(委員) 介護の制度があれば助かる農家は多いと思う。

(委員) 今年度から東京都の補助制度が始まっているが使い辛いようだ。実情にあった制度を考えていけばいいと思う。

(委員) 東京都の制度は経営者向けで、出産・育児で人を雇ったときの経費を補助する内容となっている。

(委員) 現在、農業者は保育園にも入りにくいし、介護認定も受けにくい。

(委員) 日野産農産物のブランディングについて（施策No.121）は具体的な考えがあるのか。

(委員) ロゴマークの作成や、庭先マップの刊行等をイメージしている。

(委員) 東京都も農業振興プランでブランド化の推進をあげている。

(委員) 東京都農林水産振興財団チャレンジ農業支援センターも活用して頂きたい。

(委員) 若手農業者の支援（施策No.114）について思うことだが、農業は横のつながりが薄い。会って話す機会も少ない。

(委員) 女性農業者への支援（施策No.115）もそうだが、交流の場が必要だと思う。

## 第4章の2

(事務局) 資料説明

(委員) 施策No.232、233の数値は整合性がとれていないように見えるが誤りではないか。

(事務局) 施策No.232は農の学校の各年度の受講生の数、施策No.233は農の学校を卒業後のボランティア登録した方の年間の実働人数。事情で登録しない方や、登録を辞める方もいるのでこのような数字となる。

(委員) 施策No.213の学校給食運搬支援はずっと続けるのか、自立を目標としているのか。

(事務局) 農協単独の取組みとして自立していくためには、運搬支援だけではなく食材の供給も将来的に進めていく必要がある。近隣では小平の農協が進んだ取組みをしている。

(委員) 施策No.211の学校給食供給用地の確保の中で、「区画整理事業用地」という言葉を使っているのが、区画整理課に確認をしてほしい。

(委員) 施策No.221防災協力農地協定はどのような状況なのか。

(事務局) まずは、学校給食供給の圃場を予定している。

(委員) 施策No.222の防災兼用農業用井戸について推進をお願いしたい。

(事務局) 都補助が生産緑地に限られるので、地域が偏ってしまう。

## 第4章の3

(事務局) 資料説明

(委員) 施策No.332にある「農業公園」は具体的にどこなのか。町田市のような広さが欲しい。

(事務局) まだ具体化していない。農地の公有化の方法の一つとして記載した。

(委員) 地区計画を変えるのは大変で事前の取決めが必要であるため、都の補助も使われにくい。

(委員) 日野市では倉沢か東光寺上が考えられる。

(委員) 現在の街づくりで人の住む地域と農地とのすみ分けはあるのか。

(委員) 市街化区域と市街化調整区域の分けはある。

(委員) 国の計画でも都市農地は「宅地化すべきもの」から都市に「あるべきもの」に転換した。

(委員) 施策No.321、322の環境に関わる施策についても都の支援を頂きたい。

(委員) エコ農業者(東京都エコ農産物認証・東京都GAP認証)の数を増やしていきたい。3段階(東京エコ25・50・100)あるので取組みを進めてほしい。また、施策No.322環境に配慮した設備の導入支援についてもメリットが無いと言われているが、PRを進めたい。

(委員) 施策No.335現在も用水組合での維持管理をやっているのか。

(事務局) やっている。用水組合の手が回らないところは、市の緑と清流課がやっている。

(委員) 施策No.335、336に用水の維持管理について記載されているが、用水の多面的機能を入れてはどうか。

(委員) 震災時に用水を利用できるということを消防団の研修で教わった。

(委員) 阪神淡路大震災の際は、井戸が無事で水道より役立ったと聞いている。

(委員) 水道施設も昔よりは防災に強くなっている。

(会長) 本懇談会で出た意見は、第4次日野市農業振興計画策定委員会へ提出する。

## 4. 閉会 (農産係長)

(事務局) 今後の予定の確認

(委員) 閉会の挨拶